

官一等の待遇を受け、九州帝國大學教授たり、令閨ワカ子は山口縣士族大隅行一君の妹にして其間に建介君、美名子、敦子、章介君あり、弟彦介君は山口縣人柳谷三三養父平三郎君の養子となり、妹タケ子は同縣人陸軍騎兵大尉黒瀬愛三君に、同マツ子は同縣人松尾由之介君に、養子タキ子は同縣士族河村誠一君に嫁せり

〔現住〕福岡市因幡町

杉道助君

實業家

君は山口縣士族杉相次郎君の長男にして明治十七年二月を以て生る、現時八木商店専務、浪速紡織株式會社常務、浪速織物株式會社取締役、船場ビルデンダ監査役たり、令閨ヨシ子は大阪府人八木與三郎君の長女なり、妹サダ子は山口縣士族杉山友之輔弟俊亮君に、同秀子は同縣人久保田庄作君に、叔母シヅ子は同縣士族伊藤勤作君に嫁せり

〔現住〕大阪府東成郡住吉町小谷四八九〔電話〕住吉二〇二

杉原榮三郎君

東京商業會議所副會長
東武鐵道株式會社長

君は東京府人杉原丈太郎君の兄にして、慶應元年五月を以て生る、棉花商を營み、杉原商會と稱す、現時東京商業會議所特別議員、長田銀行頭取、北武鐵道社長、共益倉庫取締役、東京米穀商品取引所監査役たり、曾て東京商業會議所副會長に擧げらる、令閨その子は東京府人石井清秀君の叔母にして兩人の間に一郎君、清子、稻子、増子、二郎君、美子、貴美子、睦子あり〔現住〕東京市下谷區北稻荷町一〔電話〕下谷三〇六

杉田與三郎君

實業家

君は大阪府人杉田與兵衛君の二男にして、明治十八年七月を以て生る、現時島自働車、朝鮮煙草、日米板硝子、杉田與兵衛

杉村正太郎君

倉庫業

君は大阪府人杉村正太郎君の長男にして、明治七年二月を以て生る、現時朝鮮電氣株式會社長、杉村倉庫代表、播磨水電電氣株式會社取締役、元山水力電氣監査役たり、令閨ヒサ子は東京府士族五代龍作君の養妹にして兩人間に正一郎君、正二郎君、正三郎君あり、弟徳次郎君同永三郎君は各分家せり

〔現住〕大阪市東區南久太郎町二ノ一〇六〔電話〕東一七七八

杉村七太郎君

醫學博士

君は靜岡縣人杉村七重郎君の長男にして、明治十二年十二月を以て生る、同三十九年東京帝國大學醫學科大學を卒業し、更に大學院に入り外科學を専攻せり後獨佛諸國に留學す、東京帝國大學醫學科大學助手、新潟醫學專門學校教授等に歴任し現時正五

位勳四等高等官二等の待遇を受け東北帝國大學教授たり、又曩に醫術開業試験委員被仰付、令閨琴子は靜岡縣人岡田良平君の妹にして兩人の間に郁子あり、妹てる子は靜岡縣人市川きぬ子に、弟博次君は同縣人市川喜平君に各養子となり、妹ふみ子は同縣人杉山謙三二男麟一郎君に嫁し、弟格之助君は廢家市川氏を再興せり

〔現住〕仙臺市長刀町

〔電話〕一六七八

杉浦宗三郎君

東京瓦斯株式會社専務取締役

君は東京府士族雨森宗益君の三男にして、明治三年十二月を以て生る、同二十七年帝國大學工科大學を卒業す、鐵道院技師となり、東京鐵道管理局營業課長兼運輸船舶課長、鐵道技監等歴任し、今日に至る、令閨とし子は東京府人首藤諒君の長女にして其間に卯吉君外二男二女あり長女その子は東京府人永田甚之

助弟四郎君に嫁し、二男己之吉君は同府士族雨森登宇君の養子となり、二女春子は男爵後藤新平長男一藏君に嫁せり

〔現住〕東京府豊多摩郡大久保町西大久保四四九〔電話〕番町三六一五

杉浦彝君

實業家

君は靜岡縣人杉浦佐平次君の長男にして明治六年十一月を以て生る、同二十七年慶應義塾を卒業す、曩に二俣町助役たり、現時は百三十八銀行頭取、秋葉水力電氣、奥山電燈各株式會社長、天龍電力株式會社取締役たり、令閨シゲリは靜岡縣人大富部喜兵衛君の四女にして其間に芳郎君、いま子、ちづ子、とき子、すま子、祐次君、三雄君あり、妹ひさ子は神奈川縣人吉永仁藏長男禮二君に、同さち子は靜岡縣人山田丘君に嫁し、弟壽作君は神奈川縣人本間とく子に妹てふ子は靜岡縣人小川善平君

商店各取締役たり、令閨あい子は兵庫縣人士族服部邑橋君の長女にして兩人の間に英一君、敏君三郎君あり

〔現住〕大阪豊能郡箕面村

杉溪言長君

男爵 貴族院議員

當家は内大臣藤原鎌足の曾孫左大臣魚名の裔山科家の庶流なり、君は正二位伯耆山科言綏の令弟にして、一家を創立す、慶應元年五月を以て生る、南都興福寺中妙徳院住職たりしが、復飾仰付られ、明治二年堂上の格を賜ひ氏を杉溪と稱し同八年華族に列し、同十七年男爵を授けらる、曩に春日神社神職、京都宮殿勤番、殿掌等被仰付、貴族院議員に當選する事五回に及ぶ正三位勳三等なり、令閨茂子は東京府人小田切重路君の養子にして、養子田言君は子爵冷泉爲勇君の庶子男なり

〔現住〕東京市麻布區新龍土町一
二〔電話〕高輪四八二三

に各養子となり、大叔母ちへ子は分家せり

〔現住〕靜岡縣磐田郡二俣町

杉浦銀藏君

實業家

君は愛知縣人棚木佐平君の弟にして、文久二年三月を以て生る、先代銀藏君の養嗣子にして前名を松四郎君と稱せり、現時岡崎電燈株式會社長、燈洋電氣株式會社取締役、石動電氣株式會社監査役たり、家族は養母うた子、男英一君、仙次郎君、良三君、博二君あり、長女せき子は愛知縣人杉山伊佐雄君に、養妹ふみ子は同縣人梶村勝藏三男富作君に嫁し、養弟政吉君は其妻とく子と共に子女を伴ひ分家せり〔現住〕岡崎市龍田

杉浦吉之助君

實業家

君は愛知縣人杉浦理兵衛君の長男にして、安政六年十一月を以て生る、現時知多商業會議所

議員、龜甲醬油株式會社取締役、丸豐、丸中各合名會社の代表たり、令閨てる子は同縣人小田甚四郎君の長女にして其間に貞吉君の外三女あり、長女れい子は愛知縣人塚本彦助君に、三女あり子は同縣人岩川文太郎弟佐太郎君に、養子かづ子は同縣人岩本熊吉弟吉次郎君に嫁し、四女よし子は其夫玄二君に従ひ子を伴ひ分家せり

〔現住〕愛知縣知多郡半田町

杉浦甲子郎君

實業家

君は茨城縣士族藤田鈞太郎君の弟にして元治元年六月を以て生る、先代敏君の養子なり、曩に東京海運株式會社監査役たり現時は常磐銀行取締、川崎銀行監事、同調査部長、十倉製紙所日本商事、茨城電氣、藏王鑛業各取締、大正製作、商業倉庫、東京毛織株式會社監査役たり、令閨ふみ子は同縣人小島順之介君の妹にして兩人の間に、英夫

君、直子、勝郎君、正子、泰子
たまりあり、長女たまりは東京
府人佐藤五郎君に嫁せり

〔現住〕東京市小石川區白山御殿
町一〇八〔電話〕小石川一一五

杉村甚三郎君

杉村商店取締役

君は東京府人杉村甚兵衛君の
長男にして、明治十年四月を以
て生る、現時東京モスリン紡績
東京キヤリコ製織、杉村商店の
取締役たり、令閨ツル子は東京
府人杉村彦右衛門君の養子、中
村善右衛門君の三女にして、其
間に友三郎君、津屋子、津満子
米三郎君、宇三郎君、勘三郎君
榮三郎君あり

〔現住〕東京市日本橋區新材木町
一〔電話〕五五九三

杉村廣太郎君

東京朝日新聞社編輯局長

君は和歌山縣土族杉村庄次郎
君の長男にして、明治五年七月
を以て生る、英吉利法律學校、

先進學院に學ぶ、明治三十二年
米國公使館員となり、同三十六
年東京朝日新聞社に入る、楚人
冠と號し令名あり、令閨らん子
は静岡縣人濱田文作君の長女に
して兩人の間に浩君、二郎君、
時雄君、武君、丈夫君、正元君
あり、四男武君は和歌山縣人喜
多幅武三郎君の養子となれり

教頭に進任し、更に同三十八年
勅任教授に陞せしが、後同校
を辭して三井家の招聘に應じ、
同一家の教育顧問として入り、
同一家の學察たる清泉學寮に於て
同一族の子弟を率ゐ熱心薰育其
衡に當り、帝國大學の優秀學生
を選抜して同舎の學友と爲して
監理しつゝあり、君資性謹直篤
學の士にして深く人生問題を研
究する所あり、之が所産として

に陞る、曩に近衛野砲兵聯隊長
野戰重砲兵第二旅團長たり、家
族に令閨チヨウ子、長男太郎君
長女八重子、二男次郎君、二女
三重子、三男三郎君あり、妹と
よ子は群馬縣土族關口鏡君に嫁
し、弟武司君は分家し、妹さく
るは弟武司の家籍に入る

杉野喜精君

東京株式取引所仲買人

杉谷泰山君

三井一家教育顧問

君は明治元年を以て三重縣に
生る、同三十年帝國大學文科大
學を卒業し、後第二高等學校教
授として聲譽あり、次で同校の



鈴木一馬君

正五位勳三等陸軍少將

君は青森縣の士族鈴木義登君
の長子にして、明治六年六月を
以て生る、明治二十年陸軍砲兵
少尉に任じ、大正八年陸軍少將

〔現住〕東京市日本橋區兜町二
〔電話〕五一七〇

杉野三次郎君

會社重役

君は北海道人近藤小右衛門君
の二男にして、文久元年二月を
以て生れ、前名を金四郎君と稱
せり、先代三次郎君の養孫なり
現時函館製鋼船具、北日本製紙
各株式會社取締役、富岡鑛業株
式會社監査役たり、令閨キタ子
は祖父三次郎君の孫にして、養
子幸七君は北海道人國領平七君
の三男なり

〔現住〕函館市辨天町

杉山利介君

會社重役

君は愛知縣人山口公藏君の三
男にして嘉永二年九月を以て生
る、先代利介君の養子にして前
名を利三郎君と稱せり、現時神
戸瓦斯、神榮、四國瓦斯、關西
瓦斯、地家管理各株式會社監査
役たり、長女しげ子は分家せり

〔現住〕神戸市元町六ノ二七二
〔電話〕元町六七五七

杉山岩三郎君

第五高等學校名譽教授

君は岡山縣土族杉山岩三郎君
の孫、同孝平君養甥、山田來次
郎君の甥なり、明治二十三年四
月を以て生る、曩に中國鐵道株
式會社取締役たり、現時は從三
位勳三等にして、第五高等學校
名譽教授たり、令閨利子は岡山
縣人猪木雄一郎君の長女にして
兩人の間に美都子、千鶴子あり
妹孝子は東京府人榎本重治君に
同時子は兵庫縣人荒木重義君に
嫁せり〔現住〕熊本市新屋敷町

杉山義雄君

實業家

君は静岡縣人杉山孝一郎君の
養兄にして慶應二年九月を以て
生る、現時東京商業會議所議員
武田割引銀行株式會社監査役、
秀英舎專務、日本洋瓦株式會社
取締役、九曜商會株式會社監査
役たり、令閨なか子は養父兼作
君の長女にして兩人の間に富子
あり、養子邦雄君と富子との間

杉山直次郎君

法學博士

君は東京府人杉山勘藏君の長
男にして、明治十一年一月を以
て生る、同三十七年東京帝國大
學法科大學佛法科を卒業す、同
三十八年民法商法研究の爲佛瑞
獨西の諸國を留學す、長崎高等
商業學校教授、東京帝國大學法
科大學助教授等に歴任し、現時
は正五位勳一等高等官二等の特
遇を受け、東京帝國大學教授た
り令閨四方子は東京府土族安原
金治君の長女にして兩人の間に
鶴江あり、妹美喜子は香川縣人
福田秀太君に嫁せり

杉山銓次郎君

味噌製造業

君は岐阜縣人杉山茂三君の三
男にして明治七年十月を以て生
る、味噌製造業を營み、尙十六
銀行監査役、大垣瓦斯電氣、美
濃電氣軌道各取締役、岐阜電氣
株式會社監査役たり、令閨みさ
子は岐阜縣人若山惣右衛門君の
二女にして兩人の間に、もと子
花子、智恵子、田鶴子あり、二

杉山孝平君

鑛山業

君は岡山縣人牧野琢磨君の弟

女もと子は岐阜縣人岡本正樹君に、姪しよう子は、同縣人杉山市右衛門君長男市造君に嫁し、庶子女こう子は其生母同縣人田中きん子の養子となれり

〔現住〕岐阜縣羽島笠松町

〔電話〕園一

杉山周藏君

實業家

君は静岡縣人杉山周一君の長男にして明治二年十一月を以て生る、前名を良太郎君と稱せり會て朝市商店、西原肥料店、沼津倉庫、静岡米穀取引所重役たり、現時は沼津銀行、駿東煉乳、東海石灰、駿豆運送、富士窯業、沼津精麥各株式會社取締役たり、令聞まつ子は同縣人鈴木興平次君の三女にして兩人の間に堅作君、さだ子、しげ子、みどりあり、長女さだ子は其夫君恒次君と共に分家し、二女しげ子は静岡縣人松本文作君に、妹せい子は同縣人吉川新作君に嫁し、弟與作君は同縣人岡本市郎平君の

養子となれたり

〔現住〕静岡縣沼津市

杉崎伊兵衛君

絹織物商

君は東京府人杉崎伊兵衛君の二男にして明治三十年十一月を以て生る、前名を慶一郎君と稱せり、絹織物商を營み尙本所鐵工所取締役たり、家族は祖母リキ子、弟好次郎君、同光三郎君、同恒司君、同篤司君、妹美根子、同滿津子、同志津子あり

〔現住〕東京市日本橋區本町一ノ九

杉崎靜夫君

實業家

君は岡山縣士族杉崎温君の長男にして、明治二年十月を以て生る、現時拓殖貯金銀行監査役、齋藤製作所専務、太田商事信託株式會社専務、エビス研磨材料取締役、浪速火災保險、北海道拓殖各株式會社監査役たり、令聞千代見は同縣人長尾市三郎君

の妹にして兩人の間に重遠君、重明君あり

〔現住〕東京市赤坂區福吉町一

杉下貞作君

會社重役

君は岐阜縣人杉下定七君の長男にして明治七年六月を以て生る、現時飛彈産業銀行、益田木材各株式會社取締役たり、令聞ひろ子は富山縣人松田新右衛門君の妹にして其間に定三君、恒子、斐子、雪子、歌子、吟子、外吉君、貞明君、糸子あり、弟直枝君は分家し、妹しげ子は岐阜縣人大森長兵衛弟益太郎君に嫁せり

〔現住〕岐阜縣吉城郡國府村

杉本鶴五郎君

洋酒食洋品雜貨輸入商

君は千葉縣人酒巻長藏君の三男にして、明治三年十二月を以て生る、先代鶴五郎君の養子にして前名を新藏君と稱せり、屋號を龜屋と稱し、洋酒食料品雜

貨直輸入商にして又杉本合名會社の代表たり、令聞のぶ子は養父鶴五郎君の二女にして兩人の間に龜藏君、鶴次郎君あり、養叔母かね子は東京府人三枝代三郎君の養母たり

〔現住〕東京市京橋區竹川町一

〔電話〕園銀座七七三

杉本米治君

會社重役

君は京都府人富田佐祐君の三男にして、明治六年五月を以て生る、現時加悅銀行取締役、西山機業場取締役たり、令聞ひさは養父治助君の長女にして兩人の間にきぬ子、喜美子、八重子あり、長女きぬ子は京都府人柿田安藏君の弟順治君を迎へて愛子、誠一郎君、正志君を擧ぐ

〔現住〕京都府與謝郡加悅町

杉本又三郎君

君は大阪府人酒井猪太郎君の養叔父、帶谷傳三郎君の弟にして慶應元年十二月を以て生る、

先代ウタ子の養子なり、現時日本製紙株式會社常務、帝國セルロイド、朝日酒類、東洋サンデーバー大秀組、日本商事信託各株式會社取締役、淀川土地建物株式會社監査役、大阪株式取引所仲買人たり、令聞シナ子は養父作兵衛君の長女にして、兩人の間にマス子、ヤス子、ナヲ子、アサ子、カツ子あり、長女マス子は大阪府人井上藤三郎君に、二女ヤス子は京都府士族野田雄道三君に嫁し、養弟久太郎君は分家せり

〔現住〕大阪市本區北濱二ノ五

〔電話〕園本局三二〇、一三三三

杉山 仲君

ドクトルメヂチネ 醫師

君は島根縣の人なり、明治十三年六月二日を以て、同縣廣瀬町に生る、廣島市廣陵中學校を出ず、君志を濟世の業に立て、笈を負ふて東京に遊び、東京帝國大學醫學部選科に入り、勉學倦む事なく、優等の成績を以て



業を卒へ、直ちに東京市下谷區入谷町に醫術開業をなす、而も君篤學にして、傍ら東京帝國大學醫學科大學の小兒科、眼科、内科、外科の各科を研究し、尙吾妻博士に就き産科婦人科を學ぶ其精力を熱心誠意に驚くべきものあり、君未だ以て足れりとせず大正十一年迥に獨逸に渡航し、

更に瑞西國に轉じ、醫術の研鑽に耽ける事二年、其優秀なる成績に遂にドクトルメヂチネの稱號を受領するに至れり、大正十二年五月歸朝して、現住地に病院を開設す、而もこの設計は君が海外に於て見聞せる智識を基礎とした最新式の設備にして地坪四百三十六、建坪數三百坪放流式便所を設備し、收用人員

杉本敬吾君

會社重役

六十名、醫員五名、正に堂々たる模範的病院をなす、加之香雲堂病院長小池重博士及井上重喜博士を顧問とし、一週數回出診せらる、副院長をドクトル佐藤銀一君と云ひ、東京醫學士河野甫氏、同赤松誠一郎氏、岡山醫學士大河原柳司氏醫員として診療に従事す、君が經營の才と、刀圭の術とは實に斯界に冠たるものにして、門前常に市をなすと云ふ、誠に病者の福音と云ふべし

〔現住〕東京市下谷區新坂本町五

〔電話〕小石川四三三三

君は栃木縣人杉本儀十郎君の養子にして、嘉永三年九月を以て生る、現時惠比壽工業株式會社代表、雙葉炭礦株式會社取締役たり、令聞はな子は同縣人古澤清六君の養子にして其間に三四君、實君、京子、光子、進君、常廣君、潤次郎君あり、養子永八郎君は其妻たに子及子女を伴

杉森此馬君

關東廳旅順工科學堂教授

君は福岡縣士族杉森憲正君の長男にして、安政五年三月を以て生る、明治十七年明治學院を卒業す、山口高等學校、第四高

等學校教授、廣島高等師範學校各教授に歴任し、現時は正五位勳五等の待遇を受く、曩に英語研究の爲英米に留學せり、令閨ムメ子は静岡縣人士族高橋君の姪にして其間に正男君、孝子エイ子、ヨシ子、ノブ子あり、二女ヨシ子は兵庫縣人福本剛二叔父順三郎君に、三女ノブ子は山形縣人丸山英一君に嫁せり

住友吉左衛門君

男爵 大阪府多額納稅者

君は故右大臣從一位德大寺公純第六子、公爵西園寺公望君の弟、公爵德大寺公弘君、子爵高千穂宜麿君、男爵德大寺則麿君の叔父にして、元治元年十二月を以て生る、先々代友親君の養子にして前名を友純又は隆麿と稱し春翠と號せり、明治二十五年學習院を卒業す、祖業たる銀行、倉庫、鑛山、鑄鋼、伸銅、電線、肥料業等に從ふ、明治二十九年特旨を以て從五位に陞叙

杉敏介君

第一高等學校教授

君は山口縣人士族杉肇君の長男にして明治五年五月を以て生る、同二十九年帝國大學文科大學國文科を卒業す、從四位勳四等高等官三等勳任待遇を受く、令閨ヨシヲは滋賀縣人士族松宗賢次郎君の長女にして其間に幹丸君、憲次君、綾子あり

〔現居〕東京市小石川區久堅町五八〔電話〕小石川一〇〇三

杉程次郎君

東京地方專賣局長

君は東京府人杉晴之助君の二男にして明治十一年十二月を以て生る、同三十七年東京帝國大學法科大學を卒業す、同年文官高等試験に合格し、稅務監督局事務官兼鹽務局事務官、札幌稅務監督局長、大藏書記官、專賣局參事、專賣局總務課長等に歴任し今日に至る、令閨せつ子は東京府人山田文太郎君の養妹にして、其間に雅夫君、章子、靖夫君、曉夫君あり、弟廣三郎君は其妻月尾及び子を伴ひ、同工學士温平君は其妻幾子と共に、妹同法學士宜陳君は各分家し、妹アイ子は岡山縣人士族長尾重平弟奎太郎君に、同富美子は分縣人小野直作弟孝三郎君に嫁せり

〔現居〕東京市小石川區指ヶ谷町八九〔電話〕小石川一一一七

杉原信三郎君

金光教神戸教會長

物質文明の進歩に伴ひ、人心次第に墮落して、道德衰へ政教破れ、奢侈、淫逸の風滔々として一世に漲り、泰西の偽文明に毒せられたる輕薄者流の跋扈跳梁に委す、世人その歸する所を知らず、只營々として我利のみ事とす、この間に立ちて人を助け世を救ひ、只一筋に神の御旨を傳へて倦まざる金光教々師杉原信三郎君は京都府の人なり、明治十五年三月乙訓郡羽束師村に生る、京都府立師範學校附屬小學校を卒業し、陸軍を人たらむと志し、東上して成城中學校に學びしも、悟る處あり、金光教の信仰に入り今日に至る、君は嘗て、先年御追贈を受けたる明治維新の志士京都の人鈴木無隱師に師事して精神修養の基礎を造れり、もと金谷氏なりしも本教々師として神戸に赴任すると共に杉原家に入りその姓を冒

す、現在同教會議員にして神戸教會長の要職にあり、君は資性温順典雅、謙讓の美德を具へ、苟も人と争はず、確固たる信仰の下に不撓の精神を藏し、只管布教救世の實を擧げんとしつゝ、あり、而も未だ足れりとせず、益々修養をつみて大に神の御旨を傳へんと努力す、又偉なる哉

〔現居〕神戸市北長狹道六丁目



鈴木三郎助君

株式會社鈴木商店取締役社長 東信電氣株式會社社長

君は神奈川縣の人にして慶應三年十二月二十七日を以て三浦郡葉山村に生る、先代鈴木三郎助君の長子にして幼名を泰助と呼び、明治八年父君の没するに

す之部

及び家督を相續して家名を繼ぐ普通教育修了後小笠原東陽氏の耕餘塾に入り國語漢籍を修む、十二年浦賀の加藤小兵衛の商店に入りて商業を實習し、十五年郷里に歸りて米穀及酒類販賣業を開始す、然るに少壯氣銳成功を急ぎ忽ち失敗の止むなきに至る君更に身を挺して上京善後策を構す、母堂なか子は此の失敗に對するも毫も尋常婦人の悲しみをなさず、赤手失敗を挽回せんと決意せり、時恰も村田春齡なる人より海草より沃度を製造せらるゝを聞き、爾來沃度の製造に苦心する事一年にして其製造を案出せり、二十三年家に歸り沃度製造に全力を傾け、苦心慘澹十年一日の如く刻苦精勵遂に之を大成し、葉山の地に一千餘坪の大工場を建設するに至る三十三年五月京橋區彌左衛門町に店舗を開き、販賣の道を構じ陸軍用達として大いに活動せり其れより沃度製造の事業は遺憾なく發展盛行し、各地に分工場

を設け、全國需用の大半を制するに至る、亞いで日本化學工業會社を創立して君其專務取締役となり、其經營に従事し基礎確立するに及び專務を辭して取締役となる、更に特筆すべきは君の「味の素」製造販賣なりとす、四十一年池田理學博士によりて發見せらるゝや、君是れが製造販賣を引受け、熱心販賣に従事し、其の奮闘の面目を聳えしめ二年にして其需要は全國各地より東洋歐洲の各都市にまで歡迎せらるゝに至れり、川崎六郷川の河畔に二萬餘坪の土地を得て一大工場を建築し、激増する需要に應じつゝあり、今や致富巨萬有數の資産家として名聲頗る高く關係各會社として東京電燈株式會社取締役、東信電氣株式會社取締役社長、株式會社鈴木商店取締役社長として快腕隆々を以て斯界の刮目たり、天資英邁性格崇高にして風格侵すべからざるものあり、夫人てる子は神奈川縣三浦郡芦名辻井繁七君

諏訪忠元君

子爵 芝大神宮兼芝東照宮社司

當家は源經基の五男村岡下野守満快の後なり、子孫世々信濃に住し先代子爵忠誠に至る、君其後を承く、君實は伯爵溝口直亮の叔父に當り子爵増山正治君の令弟にして子爵五島盛光君の兄に當るなり明治三年七月の生誕にして先代忠誠の養子となり明治三十一年襲爵す、同二十六年帝國大學文科大學國文科を卒業して現時芝大神宮兼東照宮社司たり、令閨をはる子と云ひ養父忠誠君の三女にして長女千賀子は子爵仙石政敬君の弟從五位法學士たる忠久君を婿養子とし

て迎へ二男四女を擧ぐ、尙二女廣子は東京府人植村傳助君の許に嫁きたり

〔現住〕大阪市北區堂島濱通一ノ五八〔電話〕北一一二三

菅井與左衛門君

與倉屋醬油醸造業
千葉縣多額納稅者

君は千葉縣人福島庄右衛門君の二男にして、安政元年四月を以て生る、先代顯利君の養子なり、現に千葉縣の多額納稅者にして尙與倉屋と稱し醬油醸造業を營めり、養父顯利君の長女たる令閨くに子との間に七男二女を有し、長男與平君は茨城縣人山本吉城君の妹のぶ子を迎へ、二男虎之助君は千葉縣人岩井愛之助君の二女きち子を娶り、又女とく子は千葉縣人堀川みつ子の叔父たる徳次郎君を婚養子として迎へ、二女つる子は千葉縣人三枝茂治君に嫁き、又四男の孝君は同縣人菅井國之助君の養子となりたり〔現住〕千葉縣香取

郡佐原町

砂田重政君

衆議院議員 辨護士

君は愛媛縣人砂田重治君の長男にして明治十七年九月を以て生る東京法學院を卒業し、司法官司補に任せられたりしが後辭職せり、衆議院議員に當選すること三回現在に至る、革新俱樂部の新人として婦人問題の解決に力を注ぎつゝあり、尙榮組及び日本給水株式會社の監査役等の職につき辯護士をも開業す令閨をキヨ子と云ひ豫備陸軍中將小原傳君の養子にして君との間に雅子、重民君、勝次郎君等あり、尙弟英雄君は同縣人河野エ子子の養子となりたり

〔現住〕神戸市下山手通六ノ二〔電話〕本局四七六三

末松春彦君

從五位 子爵

當家は先代法及文學博士たる末松謙澄君に依て家名を揚げたり、謙澄は舊福岡藩士末松臥雲

君の四男にして青萍と號し、明治八年太政官御用掛となり、爾來文部省及び内務省に各出仕し爾後法制局長官並に内閣恩給局長、逓信大臣、樞密顧問官等に歴任し又衆議院議員及び貴族院議員となり尙韓國皇太子殿下の御教養係となれり、爾後韓國財政整理の功にて男爵を授けられ明治四十年子爵に陞さる、君實は福岡縣人末松凱平君の二男にして明治二十九年九月を以て生る、先代謙澄君の養子となり、大正九年に襲爵せり、令閨志賀子は侯爵佐々木行忠君の從妹にして、尙養妹澤子は法學士たる大竹茂雄君に嫁きたり

〔現住〕東京市芝區西久保城山町

杉林庄七君

製鐵業

君は富山縣人杉林勘次郎君の五男にして明治二年六月を以て生る、現時日本亞鉛株式會社の取締役及び杉林黒鉛滿備製煉所の代表者にして尙製鐵業を經營

〔現住〕東京市麹町區飯田町五ノ三五

杉村甚兵衛君

丁字屋 洋織物商

君は京都府人杉村甚兵衛君の

四男にして嘉永六年三月の出生なり、前名を甚三郎と云ひ先代南友君の養子なり、現時杉村合名會社の代表者、東京モスリン紡織株式會社の相談役等に就任し尙丁字屋と稱し洋織物商を營めり、令閨きし子は京都府の人錦木八重子の長女にして君との間に四男二女あり、二男友治郎君は東京府人杉村彦右衛門君の四女トヲ子を娶り又三男米次郎君は服部金太郎君の六女カヅ子

を娶り又四男虎四郎君は東京府人八十島誠之君の姉郷子を娶りたり尙長女まさ子は東京府人薩摩治兵衛君に二女信子は同府人若林龜之助君に嫁きたり

〔現住〕東京市日本橋區蠣殻町三ノ一一

杉野伊三郎君

米穀取引所仲買人

君は石川縣の人杉野伊作君の長男にして明治五年九月を以て生る、現時神戸取引信託株式會社の取締役に就任し米穀取引所

す 之 部



杉村 幹君

戸山腦病院長

文藻に富み、法學に精通し、醫術に深達す、蓋し罕觀たらざるの士なり、君は實に斯に達するの士なり、君は明治十四年一月を以て山形縣鶴岡市に生れ、杉村正謙氏の男なり、幼にして東京に出で、明治三十三年三月東京府立城北學中校を卒業し、

三十四年七月仙臺第二高等學校第一部に入學し英國文學を専攻す、三十八年七月同校を卒業するや當然文科大學に入る可かりし君は果然其方針を轉じ、東京帝國大學法科大學に入り政治科に學ぶ、四十二年七月其業を了へ法學士となり、直ちに大學院に入り行政法學中「地方自治行政及警察」に關する科目を研究す、四十三年十一月警視廳に入り、第一警衛課、警務課、官房文書課等に勤務し、各課實務に通曉し、大に將來の囑目たりしが偶君の嚴父の經營に關る戸山腦病院其施設宜きを待す、一時其業務を中止するの止むなきに至れり、茲に於てか君思ふらく腦病院の經營の如き社會的事業の一なり、如かず官を退きて此事業に投せんにほと、即ち大正三年十一月を以て職を辭し、嚴父を輔けて副院長となり、克く難局に當り百般の施設に改良を加へ病院の採るべき方針を確立し、着々其理想を實現するに腐

心せり、大正九年精神病院法の發布せらるゝと同時に内務大臣より東京府代用精神病院に指定せられ爾來今日に至る蓋し戸山腦病院が今日社會の信用を博し盛運を見、普く噴々の名聲あるに至れるは、實に君の功の致す處なりとす、君は資性穎悟にして夙に文藻に富み其小中學高等學校に在るの日、文章を以てしては君の右に出づるものなかりき、君が先輩同窓等しく君に囑るに他日筆を執りて文壇に立つの日あるを期待せしめたり、其法律に轉じ、再轉して醫界に立つが如きは同學の豫想せざりし處なり、左れば著書あり、農業小論、行餘集、鞭思樓歌集、明治大正漢詩私選等にして、他又先賢掃墓考、先賢夫牘集等は現に執筆中なり、君又書畫を嗜む鑑賞に於て又一隻眼あり、蓋し稀世の博學と謂ふべきなり、夫人を薰子と呼び内助の稱れあり、その間長女秀子、次女恒子三女俊子、四女慶子等何れも健

在にして、一家極めて圓滿なり

〔現住〕東京市牛込區若松町一〇

二〔電話〕牛込六六五

鈴木岩治郎君

株式會社鈴木商店主

君は兵庫縣人鈴木岩治郎君の長男にして明治十七年十一月を以て生る東京專修學校を卒業したり、現時第六十五銀行の監査役及び神戸製鋼所、帝國汽船株式會社、東京燐寸株式會社の各取締役、大正生命保險株式會社並に浪華倉庫株式會社、日本教育生命保險株式會社等の各監査役に於て尙合名會社鈴木商店を經營す、前に歐米を漫遊せし事あり〔現住〕神戸市榮町四一四

〔電話〕三宮一四〔宅宅〕

神戸市東川崎町一ノ一

〔電話〕本局一六一〔商店〕

鈴木富太郎君

實業家

君は宮城縣人鈴木富五郎君の長男にして慶應二年二月を以て

生る、現時白石商業株式會社の取締役及び宮城縣農工銀行の監査役をつとむ、令閨いし子は同縣人鎌田權五郎君の長女にして二男五女あり、長男菊藏君は白石商業銀行の監査役に於て福島縣人内池三十郎君の三女貞子を娶りて誠太郎君、準之助君、祥藏君あり、尙長女とせば宮城縣人千葉源治君長男藤吉君に嫁き、二女みや子は同縣人水野泰治君長男純一君の許に嫁たり

〔現住〕宮城縣刈田郡白石町

鈴木寅彦君

實業家

君は福島縣の人國井豊次郎君の長男にして明治六年三月を以て生る、先代リキ子の養子となり、早稻田大學及び日本大學にて修學す、曩に日本鐵道株式會社の社員たりし事あり、現に勳四等にして泰平銀行の取締役及び東京乘合自動車株式會社事務取締役、北海道瓦斯株式會社、日清生命保險株式會社、成田鐵

道株式會社、ヤツブ島興業株式會社、日本電氣爐工業株式會社、隅田川製鐵所並に東洋耐火煉瓦株式會社、武藏電氣鐵道株式會社等以上諸會社の各取締役及び東京瓦斯株式會社の監査役として、實業界に大に盡力す曾て福島縣より選ばれて衆議院議員に當選すること二回に及ぶ令閨を志津子と呼び君との間に五男三女あり

〔現住〕東京市本郷區元町一ノ六

〔電話〕小石川二〇

鈴木忠吉君

實業家

君は静岡縣の人鈴木忠治君の二男にして明治四年二月を以て生れ、前名を直次郎と云へり、現今下田銀行及び片濱銀行の取締役、河津川水力電氣株式會社、南豆馬車鐵道株式會社等の各取締役に就任す、令閨たき子は同縣人渡邊慶次郎君の長女にして女よし子あり、同縣人澤村久右

衛門君五男徳治君を婿養子として迎へ其の間に正夫君、直夫君貞子等あり、尙妹のふ子は其夫美太郎君に從ひ其子女を携へて分家し、同昌吉君も亦其妻よし子と共に分家をなせり

〔現住〕静岡縣賀茂郡下田町

鈴木要三郎君

後備海軍主計大佐 實業家

君は東京府人鈴木至政君の分家にして慶應元年二月を以て生る、明治二十一年海軍少主計に任じ後主計大監に陞任したり、其間佐世保鎮守府主計部長、海軍大學校主計長、高千穂艦主計長、水路部會計課長、海軍主計官練習所教官、佐世保海軍經理部長兼佐世保鎮守府主計長等に歴補したり、現時日本活動寫眞湊川活動寫眞各株式會社の取締役及び新橋倉庫株式會社監査役に就任す、令閨ナヲ子は東京府人今村續君の四女にして家族は尙勝之助君、玉枝子、喬枝子、靜枝子、力之助君の數子あり、



杉本好太郎君

關東水力電氣株式會社技師長

君は大阪の人、明治二十年二月を以て生る、天性聰明にして夙に大志を抱き、土木の興隆は即ち國家隆盛の表象たるを看取り、笈を負ふて東上し、東京帝國大學土木工學科に入學、日夜研鑽する所あり、明治四十四年抜群の成績を以て同科を卒業す後直ちに、志岐組、龜割組の技術主任に聘せられ、湖南線、京元線、京釜改良線等朝鮮に於ける、各鐵道工事請負に従事し、學習せる處を實地に應用して、

鈴木太郎君

實業家

君は宮崎縣の人鈴木才藏君の長男にして明治六年十二月を以て生る、夙に慶應義塾を卒業して曩に帝國生命保險株式會社の庶務課長に就任せし事あり、現時東京瓦斯コークス株式會社取締役兼支配人、日本寒天株式會社、日本紙糸紡績株式會社、北海興業株式會社、阿部商事、大輝海運、帝國物産、日本莊園、海運商會各株式會社の取締役に就任し益々奮闘しつゝあり、令閨をはつ子と云ひ、宮城縣人木村一是君の長女にして、君との間に達夫君、俊吉君、澄子、實枝子、康吉君等あり

〔現住〕東京府下入新井町字不入斗八八

鈴木達治君

橫濱高等工學學校長

君は愛媛縣の人鈴木禮作君の長男にして明治四年九月を以て生る、明治三十三年東京帝國大

學理科大學化學部を卒業し、尙同四十一年電氣化學工業研究の爲めに獨、英、米各國に留學したり、爾後第二高等學校の教授兼仙臺醫學專門學校教授となり間もなく廣島高等師範學校教授を拜命、尋で東京高等工業學校教授に歴任す、尙弟常治君は愛媛縣人星川盛一郎君長女チカ子を娶りて二男六女あり、尙其長女ユリエは愛媛縣人岩崎茂行君に嫁たり〔現住〕東京府下代々幡町代々木南山谷二九六

鈴木梅四郎君

元衆議院議員 實業家

君は長野縣の人鈴木龍藏君の三男にして文久二年四月を以て生誕とす、慶應義塾を卒業し、曩に時事新報記者、橫濱貿易新聞社長となり間もなく王子製紙株式會社の取締役及び同會理事となれり、尙明治四十五年以來衆議院議員に當選すること四回に及ぶ、又曾て臺南製糖株式會

社の社長、共同火災保險株式會社及び日本鑛業株式會社等の各取締役並に三越吳服店、東洋印刷株式會社、東亞製粉株式會社田村洋行、帝國通信社等の監査役に就任し、實業界の爲に大に貢獻する處ありたり、現時諸會社を退きて老體の精養につとむ令閨英子は、岡山縣人河原信可君の長女にして家族は尙養子安佐子、兄妻はつ子、孫實君等あり

〔現住〕東京市麴町區四番町三

鈴木 寧君

北海道帝國大學附屬水産專門部教授兼生徒監

君は青森縣の人鈴木元治君の長男にして明治十四年二月を以て生る、明治三十八年札幌農學校を卒業し尙同三十九年に水産學を研究の爲歐米に留學したり爾來、北海道廳立水産學校教諭となり、又札幌農學校教授を拜命し間もなく東北帝國大學農科大學教授を歴任、尋いで同教授

に歴任す、現時正五位勳四等に於て北海道帝國大學附屬水産專門部教授並に生徒監に就任す、令閨をエルナと云ひ、獨逸人アドリアンハインリッヒの二女にして君との間に昇君、政君、實君、惠里等あり

〔現住〕札幌市北四條西七丁目

鈴木梅太郎君

農學博士 東京帝國大學教授

君は靜岡縣の人鈴木捨藏君の令弟にして明治七年四月を以て生る篠田治策君の從弟に當れり明治二十九年帝國大學農科大學農藝化學科を卒業す、爾後東京帝國大學農科大學助教授となり尋で盛岡高等農林學校教授兼東京帝國大學農科大學助教授を拜命し間もなく東京帝國大學農科大學教授兼盛岡高等農林學校教授に就任す、尙明治三十九年農藝化學研究の爲に獨、佛、瑞等各國を歴遊したり、現時從四位勳三等農學博士にして東京帝國大學の教授たり、令閨スマ子は

故工學博士辰野金吾君の長女にして君との間に久仁子あり

鈴木喜三郎君

從三位勳一等 法學博士 貴族院議員

君は神奈川縣人川島富右衛門君の三男にして慶應三年十月を以て生る、先代慈孝君の養子なり、明治二十四年帝國大學法科大學を卒業し、爾後司法官試補となり、麴町、京橋各區裁判所東京地方裁判所の各判事に就任尋で同部長となり、尙東京控訴院判事、同部長、大審院判事及び東京地方裁判所長、司法省法務局長、司法次官等に歴任し、尋いで大審院檢事總長となり、更に司法大臣に榮進し、後貴族院議員に勅選せらる、曩に司法制度視察の爲の歐米各國へ差遣せられしことあり、現時は從三位勳一等法學博士にして我國司法界に於ける巨擘なり、令閨を

カツ子と云ひ、東京府人鳩山一郎君の姉にして、六男六女を有し、三男皓君は東京府人小川盛重君の死跡を相續せり

〔現住〕東京市麴町區三番町七一
〔電話〕牛込二一四四

鈴木庫太郎君

藤田銀行取締役

君は靜岡縣人鈴木俊藏君の長男にして明治七年十二月を以て生る、明治三十四年東京帝國大學法科大學を卒業せり、後日本銀行營業局調査役となり尋で同新潟支店長に歴任す、現今藤田銀行取締役、藤田鑛業株式會社及び大東海火災保險株式會社監査役等の職あり、令閨をなを子と呼び東京府人西村鎌作君の二女にして兩人の間に恒彌君、よし子、ふみ子、ひで子等を有す尙弟圭介君は東京府人日比谷龜三郎君に同操三君は同府人竹田市三郎君に各養子となれり

〔現住〕兵庫縣武庫郡魚崎町

大正十三年十二月十五日印刷
大正十三年十二月二十日發行

定價 並製一部三十圓

著作
所有

東京府荏原郡平塚村戸越一三二七 著者 中村武三
東京市芝區三田三丁目十三番地 發行者 矢島信夫
東京市神田區千代田町二十八番地 印刷者 池田竹二

東京市麴町區内幸町一丁目六番地

發行所 東京朝日通信社

印刷所 東京市神田區千代田町二十八番地 共三舍

本社ノ創業者ヒーリング氏ハ明治十七年始メテ英國ヨリ來朝セラレ、電氣、瓦斯、蒸汽及其他各種ノ機械類ノ輸入販賣ヲ開始セラル、是レ實ニ本邦ニ於ケル斯業輸入販賣ノ先驅者ニシテ鐵道、通信、宮内各省及其他ノ諸官廳諸會社ニ各種ノ新式機械類ヲ多數納品シ何レモ非常ナル高評ヲ博シ本邦ニ於ケル斯界ノ恩人トマデ推賞ヲ博スルニ至レリ

爾來同氏ハ銳意斯業ノ改善發展ニ努力セラレ遂ニ明治四十一年合名組織ヲ株式ニ改メ資本金百萬圓(全額拂込)ニ増資シ大ニ業務ノ擴張發展ヲ圖リ以テ今日ニ至ル

今日迄弊社ニテ納品シタル主ナル納入先及納品大略左ノ如シ

- 南滿洲鐵道株式會社
海底電線 約三百海里
モント瓦斯裝置 壹萬KW.
- 遞信省 海底電線 約五千海里
關東廳 遞信局 自動電話交換裝置
- 鐵道省 莫ント瓦斯裝置
- 蒲田發電所 五千KW.
- モーターコンバスター(七臺)
合計一萬七千五百KW.
- 電氣機關車(東海道線急行旅客用貳臺)
一臺約貳千馬力
- 貨物用及碓井トンネル用各貳臺 一臺約八百馬力
- 赤羽發電所 七百馬力
- ボイラー 八臺(千四百五十平方米)
- 水銀整流機(マキニユリレクタチフアイヤール)
一、一〇〇KW. 參臺
- 東京市電氣局 水銀整流機
一〇八〇KW. 一臺

○三菱鑛業株式會社
ボイラープラント(美唄坑納)二千キロ參臺



○富士製紙株式會社(前日本化學紙料會社)
ボイラープラント(樺太工場)三百平方米三臺

支店所在地、大阪、大連

營業課目

- 電氣、瓦斯、蒸汽及其他各種機械器具類
- 鑛山、土木、建築、造船、鐵道
- 電信、電話用機械器具類各種電線及鋼鐵線類
- 各種計器類
- 各種自動車及自動轉車
- 電氣、及蒸汽機關車
- 建築用鋼材及設計請負
- レール及其他諸材料
- 石炭及其他諸材料運搬裝置

株式會社 ヒーリング商會 電話 7026 7031 1044
東京市麴町區永樂町永樂ビルディング

新新聞

都新聞は總ての點に於て最も優越セリ。而も經濟面に於ては、其特色を發揮す。



社長 村井貞之助
副社長 左右田棟一

東京市麴町區内幸町

太平生命保險株式會社

電話 銀座 二三八六番

專務取締役 岡本次三郎
取締役支配人 金平豊次郎

「るな確正の比無界世」

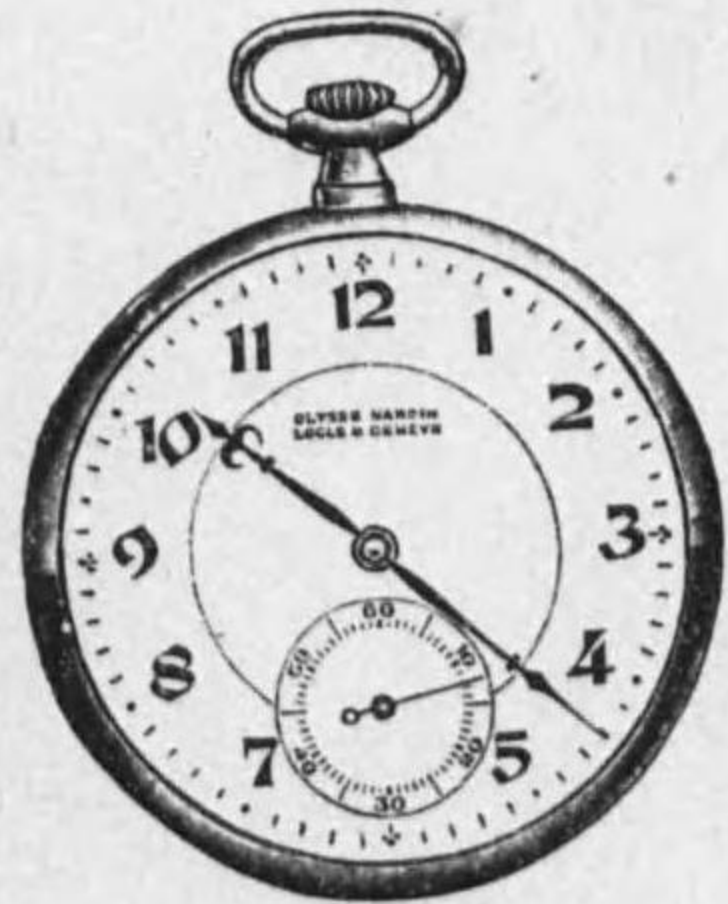
ンダルナの的想理

多くの時計は寒暑の差や位置の關係に依り指針の移動に多少の差を免れませんがナルダンの時計は製造上最も至難なる検査を厳密にし其位置(1)上向(2)下向(3)直立(4)工側立(5)右側立の五様に検査し更に氷室中及温室中に於て極暑の速速を検し最後に真空機中に於て三ヶ月以上に亘る正確の検査を経るを以て如何なる位置寒暑の影響も受けず時間の正確器械の堅牢持久の永續と云ふ三大條件に適當したものであります。



ナルダンの時計は世界の有ゆる博覽會共進會等に於て最高名譽金賞牌六百二十個を領有し現に本邦に於ても官内省より再三御買上の榮を賜り今や世界に於ける時計製造の權威と成て居ります。
學理と勞作と良心との三大主義の下になれるナルダン時計は其一個一個に擔當技師の責任ある署名の検査表を附して其機能を示してあります。活動と時間とを重んぜらるる諸賢は此時計を御使用あらんことを切にお勧め致します。

◎無料天賞堂營業案内



▼價格の概要(紳士用)
 ◎ニツケル側.....價九拾八圓以上
 ◎銀側.....價百拾圓以上
 ◎金側.....價百五拾六圓以上
 ◎白金側.....價參百圓以上



◎無料天賞堂營業案内

東京市 橋區 二丁目
 東京市 橋區 二丁目
 大阪市 日本橋區 大日本橋
 横濱市 日本橋區 大日本橋

天賞堂本店

東株一般取引員

清算物債
 清實國



御申込次第進呈
 週報
 委託証券金表
 營業案内

陸井幸平

日本橋區坂本町十九

此大勢を如何ん

財界の回復は一朝一夕ではない順序あり波瀾あり原則あり變則がある。併し下半期に於ける財界は頗る興味深く轉換の機會を藏してゐる。我株界は此大勢を如何に評價するか。株界漸く多事ならんとするとき特に民衆の機關店たる當店の御利用を請ふ

坂井屋株式會社

LICENSED STOCK BROKER

TRADE \$ MARK
SHING TAI & CO
 GENRAL TAILORS AND DRESSMAKER
 MARUNOUCHI
 TELE. No OTE 1871-5923
 TOKYO

諸官衙及
 各大公使館
 歐米洋行
 紳士貴婦人

御用達

信泰洋服店

店主 樓勝 誼

東京市麴町區有樂町一ノ四

電話大手 五九八七三番

羊毛、トップ、ノキル、ウエスト、
 毛糸、フワー、其他一般輸出入業

株式會社 **浪速商會**

電話大手 四六六番
 四五九四番

本店 東京市日本橋區吳服橋
 出張所 大阪、倫敦

資本金五千七百參拾六萬圓

東京市京橋區木挽町九丁目

帝國電燈株式會社

- 山陰支社 (福知山營業所、新舞鶴營業所、豊岡營業所、官津營業所、但馬營業所、峰山營業所、柏原營業所、耳川營業所)
- 北海道支社 (余市營業所、岩内營業所、古平營業所、真岡營業所、亞港營業所)
- 宇都宮支社 (宇都宮營業所、鹿沼營業所、栃木營業所、下館營業所、日光營業所、古河營業所、真壁營業所)
- 川越支社 (秩父營業所)
- 千葉支社 (千葉營業所、佐倉營業所、茂原營業所、東金營業所、勝浦營業所)
- 浦和支社 (浦和營業所、越ヶ谷營業所、加須營業所、野田營業所)
- 土浦支社 (土浦營業所、水海道營業所、龍ヶ崎營業所、潮來營業所)
- 銚子支社 (銚子營業所、佐原營業所、八日市場營業所)
- 青梅支社 (青梅營業所、飯能營業所、村山營業所)
- 北條支社 (北條營業所、鴨川營業所、湊營業所)
- 本社直轄 (三浦營業所、小樽精油所)
- 投資會社 (成田電氣軌道株式會社、筑波電氣株式會社、幌別川水電株式會社、東野電力株式會社、後志電氣株式會社)

森永の菓子

兒童に

通性の間食……
 その善いな味は、衛生的で、滋養に富む食物を家庭に常備して置くべきです。
 それには
森永の菓子
 が一番理想的で、兒童の嗜好に適して居ます。……とは一般家庭の定評であります……

- ミルクキャラメル
- ミルクチョコレート
- ビスケット
- クリームウエアース
- チョコレートクリーム

森永製菓株式會社

9 B 1

終